

図1 12区 縄文時代後期住居分布図(主な遺構のみ図示しています。)

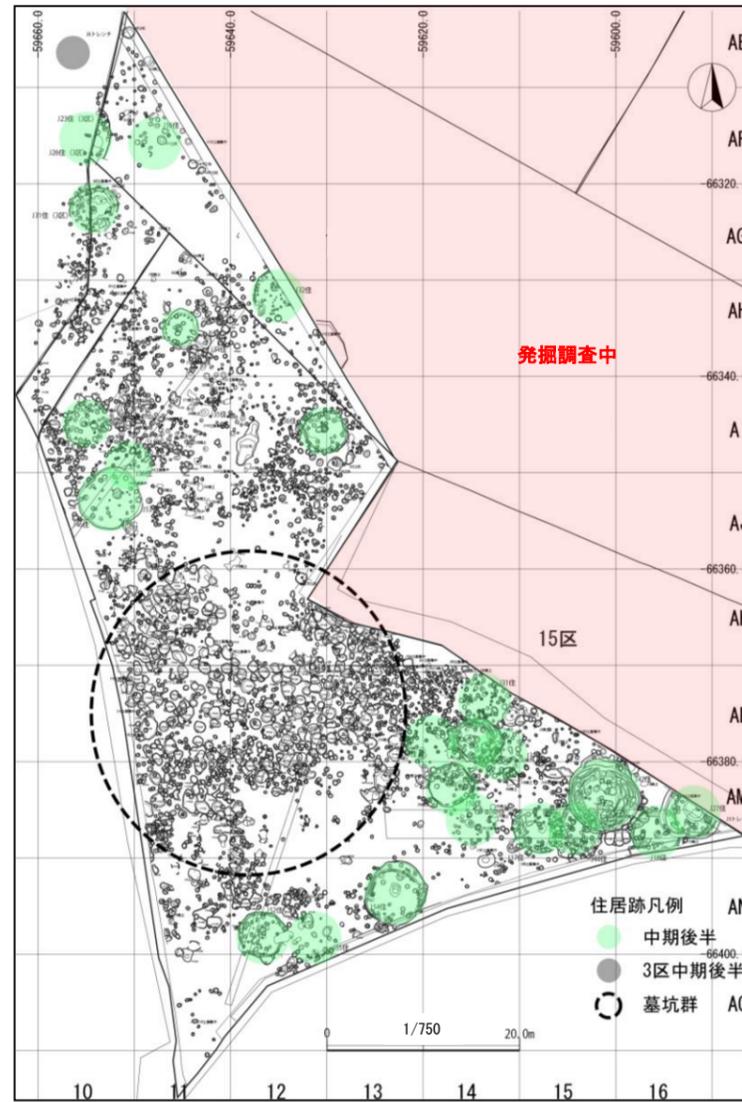


図2 12区 縄文時代中期住居分布図(主な遺構のみ図示しています。)

調査を完了した12区の遺構分布を見ると、主体的な時期は縄文時代中期と後期の2時期があります。中期初頭の住居は戸川諏訪丸遺跡が主体で数基が発見され、稲荷木遺跡で1基認められ、比較的標高の高い場所が選ばれています。中期前半や後半の住居跡は墓坑群を取り巻くよう広がっています。

後期住居は傾斜地の等高線に沿うような列状の分布が認められ、斜面のやや高い部分から平坦部まで3列程度のまとまりがあるようです。これらの住居群に伴って墓坑群も複数のまとまりが見られます。後期前葉の住居は多数発見されていますが、後期中葉から後葉にかけての住居数は減少し、集落は終焉するものと思われます。

遺跡の全体像は現在実施している15区の調査を含めて、捉えていく必要があります。

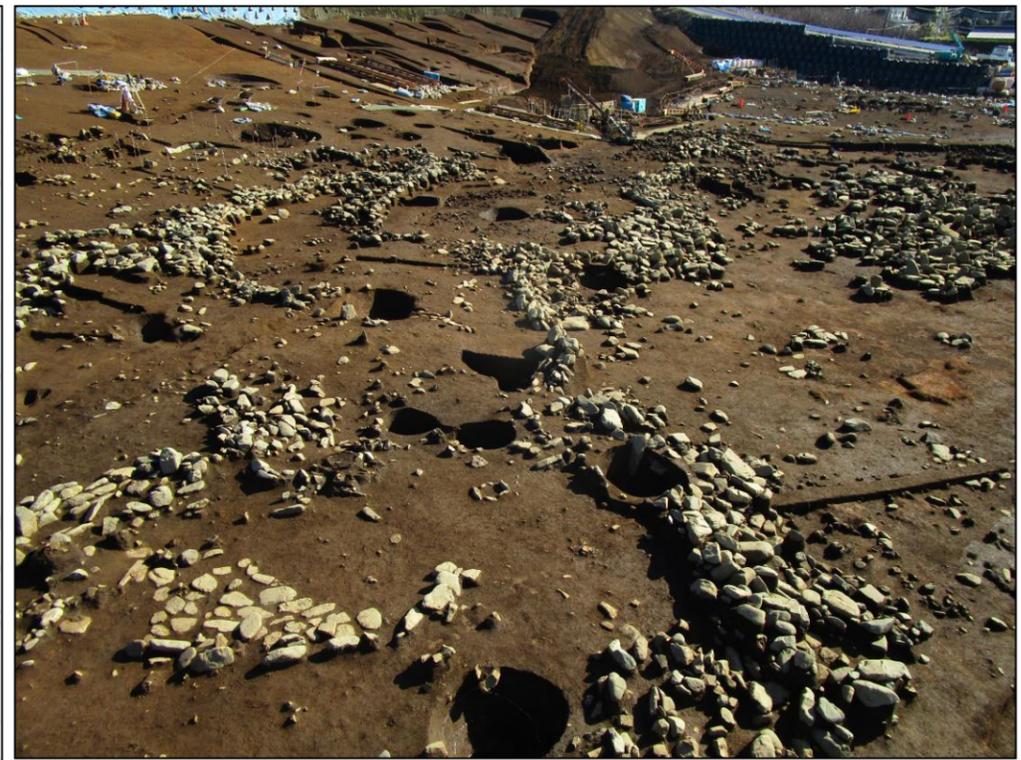


写真1 15区 遺構群検出状況

縄文時代後期の住居は傾斜地の等高線に沿うような列状に分布しています。また住居を取り囲むような石列や住居出入口から左右に伸びる石列が隣り合う住居と手をつなぐよう伸びています。複数の遺構が折り重なり複雑な様相を呈しています。円形の穴は後期以降の落とし穴です。



写真2 15区 配石群(縄文後期)

斜面裾部には住居群が並び、その前面には配石群が密集してつくられています。下部の埋葬施設の掘り込みや住居との関係など、それぞれの遺構の時期や位置関係などの詳細を把握して分析する必要があります。



写真3 15区 J1号配石群(縄文後期)

配石の中央部には大型の礫が据えられ、柱状の礫を立てたもの、扁平な礫を敷くものなどがあります。いずれも礫を並べています。周辺からは土器や石皿・石製品などが出土しています。



写真4 12区 J8号住居跡(縄文後期中葉)



写真5 12区 配石群(縄文後期中葉)



写真6 12区 墓坑群(縄文後期中葉)



写真7 16区 J2号住居跡(縄文後期前葉)



写真8 16区 J3号住居跡(中期末葉)



写真9 深鉢形土器(後期前葉)

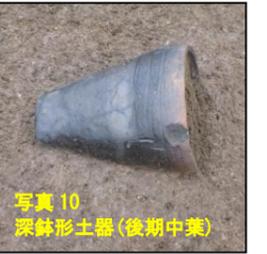


写真10 深鉢形土器(後期中葉)



写真11 鉢形土器(後期中葉)



写真12 注口土器(後期前葉)



写真13 土製品(土偶顔面部破片)



写真14 石製品(ヒスイ大珠)



写真15 石製品(石棒)